

## 会議録

会議の名称	令和5年度 第2回 茨木市こども育成支援会議
開催日時	令和5年10月27日(金) 午後6時30分～午後8時00分
開催場所	茨木市立男女共生センターローズWAM5階 501・502会議室
出席委員	五寶委員、下田平委員、樽井委員、西川委員、西村委員、濱園委員、 深見委員、福井委員、福田委員、前田委員、三角委員、村上委員、 安原委員、余田委員 (五十音順)
欠席委員	石井委員、北野委員、久保委員、西畑委員、畑瀬委員、森委員 (五十音順)
事務局	東井こども政策課長、村上子育て支援課長、中島発達支援課長、中路保育幼稚園 総務課長、下菌保育幼稚園事業課長、山内学童保育課長、吉崎社会教育振興課長、 梶西学校教育推進課長、新川教育センター所長、白波瀬こども政策課課長代理兼 政策係長、吉田こども政策課主幹兼子ども・若者支援グループ長、馬場こども政策 課職員、今北こども政策課職員
案件	<p>■会議案件</p> <p>(1) 次世代育成支援行動計画(第5期)策定に向けたアンケート調査について</p> <p>(2) 茨木市次世代育成支援行動計画(第4期)実施状況報告について</p>
配布資料	<p>資料1 茨木市 次世代育成支援に関するニーズ調査(就学前児童の保護者)(案)、 調査項目一覧(国・府必須項目比較)</p> <p>資料2 茨木市 次世代育成支援に関するニーズ調査(小学生の保護者)(案)、 調査項目一覧(国・府必須項目比較)</p> <p>資料3 茨木市次世代育成支援行動計画(第4期)実施状況報告書(案)</p> <p>当日資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度第1回こども育成支援会議でのアンケート調査票に対する委員意見及び修正内容</li> <li>・次世代育成支援に関するアンケート(19～39歳対象)＜最新版＞</li> <li>・次の世代を育てることに関するアンケート(小学校高学年・中高生用)＜最新版＞</li> <li>・子ども・子育て支援に関する事業所アンケート＜幼稚園・認定こども園・保育所＞＜最新版＞</li> <li>・子ども・子育て支援に関する事業所アンケート＜小規模保育事業＞＜最新版＞</li> <li>・子ども・子育て支援に関する事業所アンケート＜認可外保育施設＞＜最新版＞</li> <li>・事業所内保育施設に関するアンケート＜事業所内保育施設・一般企業＞＜最新版＞</li> <li>・事前質問等への回答</li> </ul>

発 言 者	発 言 内 容
<p>司 会 (東井こども 政策課長)</p>	<p>ご案内の時間となりましたので、茨木市こども育成支援会議を開催いたします。</p> <p>本日は、大変ご多用のところ、ご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>まず、本日の委員の出欠状況について報告いたします。</p> <p>茨木市PTA協議会(小・中学校) 石井 顕太委員、茨木市私立幼稚園連合会茨木高美幼稚園園長 北野 圭子委員、茨木市立児童発達支援センターあけぼの学園親の会 久保 哲也委員、茨木市私立幼稚園保護者 西畑 沙矢子委員、児童養護施設救世軍希望館館長 畑瀬 剛 委員、つどいの広場利用者 森 一博委員は、所用のため欠席のご連絡をいただいております。</p> <p>本日 20 人の委員のうち、14 人に出席をいただいております。</p> <p>それでは、茨木市こども育成支援会議条例第 6 条第 1 項の規定により、会議の議事進行を福田会長にお願いいたします。</p>
<p>福田会長</p>	<p>半数以上の委員に出席していただいておりますので、こども育成支援会議条例第 6 条第 2 項により会議は成立しております。</p> <p>なお、審議内容につきましては、これまでどおり発言者のお名前を付けて公表させていただきたいと考えておりますが、この件につきまして、ご異議ございませんか。</p>
<p>委員一同</p>	<p>異議なし</p>
<p>福田会長</p>	<p>それでは、会議録作成の関係上、どなたが発言されたのか分かるように、発言者名をおっしゃってから、発言をお願いします。</p> <p>それでは、「会議案件(1)次世代育成支援行動計画(第5期)策定に向けたアンケート調査」につきまして、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>白波瀬こども 政策課課長代 理兼政策係長</p>	<p>前回のこども育成支援会議でご審議いただきました、「小学校高学年～中高生」「19～39歳の若者」「教育・保育事業所」の各調査につきまして、現在の状況を報告させていただきます。</p> <p>各調査とも、前回の会議でいただきましたご意見等をふまえて、質問項目を一部修正いたしました。修正内容等につきまして個別の説明は省略させていただきますが、修正内容をまとめました表と、完成しました各調査票を、お手元に配布しておりますので、ご査収の程、宜しくをお願いいたします。</p> <p>調査票につきましては、先日 25 日に、調査対象世帯および事業所に発送いたしました。調査期間は 11 月 20 日(月)までの約 3 週間を予定しています。</p> <p>回収率を上げるため、未回答の世帯には、11 月中旬頃、督促通知を郵送する予定です。</p> <p>続きまして、本日、ご審議いただきます、就学前児童と小学生の保護者を対象としたアンケート調査について、説明させていただきます。</p> <p>今日、ご審議いただきますアンケート調査は、来年度策定を予定しております「茨木市次世代育成支援行動計画(第5期)」のうち、主に、子ども子育て</p>

支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」の策定にあたって必要となります。教育・保育サービス等の利用状況や今後の利用希望等（ニーズ）を把握するため、「就学前児童の保護者」、「小学生の保護者」を対象に調査を行うものです。

前回のこども育成支援会議の計画概要の説明の際、少し触れさせていただきましたが、緑色の計画冊子では「第6章 子ども・子育て支援事業の推進」のパートになります。

計画冊子の113ページをお開きください。国の基本指針では、幼稚園・保育所・認定こども園などの教育・保育施設におけるサービス、及び、利用者支援事業や地域子育て支援拠点事業などの「地域子ども・子育て支援事業」の13事業について、その量の見込みと確保方策を定めることとされております。

114ページをお開きください。先ほどの、教育・保育及び子ども子育て支援事業(13事業)の量の見込みの推計にあたっては、就学前児童および就学児童の保護者を対象としたニーズ調査の結果をもとに、国が示す手引きの手順に沿って算出し、本市の利用実績等を勘案しながら一部補正を行い、確定していくこととなります。

調査対象者は、小学校区別に、偏りのないよう住民基本台帳から無作為抽出をいたしまして、それぞれ2,500世帯を予定しています。

11月中旬までに調査内容を固め、調査票の印刷などの準備を行いまして、12月早々に各調査を実施したいと考えております。

これらの調査につきましては、回収率を上げるため、スマートフォン等から二次元コードを読み取って、WEB（インターネット）からの回答も可能としております。

続きまして、就学前児童の保護者を対象としたアンケート調査について、説明させていただきます。

事前に配付させていただいております、表紙の右上に資料1と記載された調査票と、A4縦の国・府との調査項目一覧をもとに説明させていただきます。

就学前児童の保護者の調査票は、国の手引きや、大阪府から示された調査票のひな型をもとに、本市独自の項目を加えまして、全28ページ、質問数は47、項目数は83となっております。

調査項目一覧をご覧ください。表の右端の”国””府”の列に○印を記載している項目が、国・府の必須(標準)項目となっております。また”市(H30)”の列に○印が記載されている項目は、前回、平成30年度に行いました本市の調査項目になります。質問項目のうち、国・府の必須(標準)項目が77項目、市の独自項目は6項目となっております。

それでは、調査票(案)のページをお開きください。

P1、問1～問6-1につきましては、お住まいの地域の小学校区や、家族構成、希望するこどもの人数などについての調査、P2、問7・問8につきましては、対象となるお子さんと一緒に住んでいる人や、主に子育てを行っている方についての調査、問9は市独自の項目となりまして、就学前の子育ての希望に

についての調査項目となります。問 10、P. 3 の問 11 につきましては、日頃お子さんを見てもらえる人や、気軽に相談できる人についての調査で、問 11-1 は市独自の項目となります。

P. 3、問 12～P. 4、問 13-2 につきましては、父親、母親の就業状況についての調査、P. 5、問 14～問 15-1 につきましては、フルタイムへの転換希望や就労希望についての調査になります。

P. 6、問 16～P. 7、問 16-6 につきましては、平日に定期的に利用している幼稚園や保育所、認定こども園などについての調査になりまして、問 16-3 は市独自の項目となります。

P. 8、問 17～P. 9、問 17-4 につきましては、お子さんが病気になったときの対応についての項目、P. 10、問 18～問 18-2 につきましては、平日に定期的に利用したい施設やサービスについての調査、P. 11、問 19～P. 12、問 20-1 につきましては、土日祝日・長期休暇中の幼稚園や保育所、認定こども園などの利用についての調査になります。

問 21～P. 15、問 24 につきましては、父親、母親の育児休業や、仕事と子育ての両立などについての調査になります。

P. 16、問 25～P. 17、問 29-2 につきましては、お子さんが 5 歳以上の保護者の方を対象に、小学校入学後の放課後の過ごし方や、土日祝日・夏休みなど長期休業中の学童保育の利用希望などについての調査となりまして、問 29～問 29-2 は市独自の項目となります。

P. 18、問 30～P. 19、問 32 につきましては、親の通院や不定期な仕事などを理由に、一時的にこどもを預かるサービスの利用状況や希望についての調査となります。

P. 20、問 33～問 34-1 につきましては、地域子育て支援拠点事業の利用状況や利用希望についての調査、P. 21、問 35 につきましては、子育て短期支援事業やファミリーサポートセンター事業など、子育て支援サービスの認知度や利用状況、今後の利用希望についての調査となります。

P. 22、問 36～P. 23、問 37 につきましては、市役所のサービスに対する満足度や要望について、問 38 につきましては、お子さんの生活習慣について、P. 24、問 39～問 41 につきましては、生活環境の整備などについて、P. 25、問 42～P. 27、問 45-2 につきましては、子育てが楽しいと感じるか、地域の人に支えられていると感じるかなど、子育てに対する意識についての調査となります。

P. 27、問 46、問 46-1 につきましては、お子さんが 3 人以上いらっしゃる方や、多胎の方を対象に、今回新たに追加となった項目で、子育て負担を軽減するのに有効と思われる支援策などについての調査となります。

最後に、P. 28、問 47 につきましては、子育ての環境や子育て支援に関して、子育てされている中でのご意見についての自由記述欄になります。

先日いただいております、事前質問・ご意見への回答を取りまとめた表を、お手元に置かせていただいておりますので、ご査収の程、よろしく申し上げます。

	以上です。
福田会長	ただ今の説明で、何かご意見・ご質問はございますでしょうか。
深見委員	問6で「持ちたいと思わない」を回答した人への質問について、持ちたいけど持てない方への配慮もあると良いと思います。最近では年齢に関わらず、不妊治療をしている人も多く、治療費が高額であったり、身体の負担を考えて、二人目が欲しいけど断念をせざるを得ない人からの相談も増えています。持ちたいけど持てないと判断したという選択肢もあっても良いのではないかと思います。
福田会長	問6で、持ちたいと思うか思わないかの二択になっていますが、持ちたいけど持てないという項目を増やしてほしいという意見ですが、どうですか。この質問は国や府からフォーマットが決まっている質問ですか。
東井こども政策課長	府から示されている項目であり、また、もともと質問のボリュームがたくさんありますので、項目を増やしすぎると回収率が下がってしまうという話も聞いていまして、他の市独自項目と比較して追加するか否かを検討します。
深見委員	問10について、ファミリーサポートセンターを一時保育として利用している人も多いので、選択肢の6番目にファミリーサポートセンターを追加してもらいたいです。問16-2で記載されていたので、問10にも追加しても良いのではないかと思います。どうですか。
福田会長	一時保育の部分については、他でも聞いている質問がありますし、問10の狙いは、公的なサポートの利用ではなくて、インフォーマルな関係性の中で支援があるかどうか、子どもを見てくれる人がいるかどうかを聞いている質問になりますので、そのままが良いと思いますがいかがでしょうか？
深見委員	はい、わかりました。
福田会長	ほか、いかがでしょうか。深見委員、お願いします。
深見委員	問21-4について、実際の復帰と希望が異なる方への質問が設定されていますが、本当は1～2年子どもをみたいけど、保育所に預けるのに0歳児からの方が入りやすいので、早く手放して保育所に預けるお母さんが多いと思いますので、そういう文言も入れていただけるとありがたいです。
福田会長	いただいた意見の内容であれば選択肢の1番の中に含まれるのではないかと思います。事務局の理解はどうですか。
中路保育幼稚園総務課長	意見の内容は、選択肢の1番に含まれると考えます。
福田会長	事務局、ありがとうございます。 深見委員、よろしいでしょうかね？
深見委員	はい、わかりました。
福田会長	ほか、いかがでしょうか。樽井委員、お願いします。
樽井委員	調査票の8ページについて、平日に定期的に保育所等のサービスを利用している方への質問だと思うのですが、問17と問17-1で質問文に「小学校を休まなければならなかったこと」となっていますので確認してもらいたいです。

東井こども政策課長	府のひな型をもとに作成しておりますが、質問文と整合性が合いませんので、おそらく誤りと思われます。確認して修正します。
福田会長	ほか、いかがでしょうか。三角委員、お願いします。
三角副会長	細かい点になりますが、3ページ、スマイルサポーターは私立保育園だけでなく認定こども園にもいますので、付け加えてもらいたいです。
東井こども政策課長	大阪府からひな型が提示されておまして、先日届いたひな型でもおそらく修正されていた部分と思いますので、追加します。
福田会長	はい、ありがとうございます。ほか、ご質問無いようでしたら、私からも1点よろしいでしょうか。27ページ、問46でお子さんが3人以上もしくは多胎のお子さんがある方への質問がありますが、3人以上いる場合と多胎ではニーズが違うと思いますので、可能であれば、分けて回答できるようにするなどの工夫をしてもらえればと思います。
東井こども政策課長	大阪府から示された新たな項目になりますが、ご指摘いただきましたとおり、それぞれのニーズを拾えないか項目内容を検討します。
福田会長	可能であれば、3人こどもがいる人のニーズと多胎のニーズは違い、一緒に聞いてしまうことでニーズがぼやけてしまうと思いますので分けて聞いた方が良いと思います。 それでは、各委員のご意見からいくつか修正が必要なところもあったと思いますので修正をお願いします。 続いて、小学生の保護者の調査票について、事務局から説明をお願いします。
白波瀬こども政策課長代理兼政策係長	事前に配付させていただいております、表紙の右上に資料2と記載された調査票と、A4縦の国・府との調査項目一覧をもとに説明させていただきます。 小学生の保護者の調査票は、大阪府から示された調査票のひな型をもとに、本市独自項目を加え、全20ページ、質問数は39、項目数は62となっております。 調査項目一覧をご覧ください。就学前児童の調査と同じく、表の右端の”国””府”の列に○印を記載している項目が、国・府の必須(標準)項目になっております。また”市(H30)”の列に○印が記載されている項目が、前回、平成30年度に行いました本市の調査項目になります。質問項目のうち、府のひな型に基づく項目が56項目、市の独自項目は6項目となっております。 それでは、ページをお開きください。 P1. 問1～P2. 問8-1については、お住まいの地域の小学校区や、家族構成、希望するこどもの人数、日頃お子さんを見てもらえる人や、気軽に相談できる人等についての調査、 P2. 問9～P3. 問10-2につきましては、父親、母親の就業状況についての調査、P.4、問11～問12-1につきましては、フルタイムへの転換希望や就労希望についての調査になります。 P.5、問13～P.7、問15-1につきましては、学童保育の利用状況や、土日祝日・夏休みなど長期休業中の学童保育の利用希望などについての調査となります。

	<p>P. 8、問 16～P. 9、問 18 につきましては、親の通院や不規則な仕事などを理由に、一時的に子どもを預かるサービスの利用状況や希望についての調査となります。</p> <p>P. 10、問 19～問 21 につきましては、子どもと一緒に過ごす時間や、仕事と子育てを両立させるうえでの課題などについての調査となります。</p> <p>P. 11、問 22～問 23 につきましては、市役所のサービスに対する満足度や要望についての調査となりまして、問 23 は市独自の項目となります。</p> <p>P. 12、問 24 につきましては、お子さんの生活習慣について、P. 13、問 25 につきましては、平日・休日の普段の過ごし方について、P. 14、問 26～問 29 につきましては、地域での自然体験や文化・スポーツ活動などへの参加についての調査となりまして、問 29 は市独自の項目となります。</p> <p>P. 15、問 30～問 32 につきましては、生活環境の整備などについての調査となりまして、問 32 は市独自の項目となります。</p> <p>P. 16、問 33～P. 18、問 37-2 につきましては、子育てが楽しいと感じるか、日常悩んでいることは何か、地域の人に支えられていると感じるかなど、子育てに対する意識についての調査となりまして、問 37～問 37-2 は市独自の項目となります。</p> <p>P. 19、問 38、問 38-1 につきましては、お子さんが 3 人以上いらっしゃる方や、多胎の方を対象に、今回新たに追加となった項目で、子育て負担を軽減するのに有効と思われる支援策などについての調査となります。</p> <p>最後に、P. 20、問 39 につきましては、子育ての環境や子育て支援に関して、ご意見があれば自由記述いただく欄となります。</p> <p>以上です。</p>
福田会長	<p>ただ今の説明で、何かご意見・ご質問はございますでしょうか。</p> <p>2 ページの問 8-1 については、項目は変更可能な質問でしょうか。</p>
東井子ども政策課長	<p>国から示されている項目になりますので、大幅な変更は難しいかと思えます。</p>
福田会長	<p>選択肢 6 番のスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーでは違ってくる部分もあると思います。同様に、選択肢 9 番についても、公共施設の相談と NPO などの民間の相談は違うと思います。項目を分けることで、より詳細な状況が把握できると思いますので、検討してもらえればと思います。</p>
東井子ども政策課長	<p>選択肢を分ける程度であれば、集計・分析にあたっては国との比較は可能であると考えます。また、ご指摘の通り、選択肢を分けた方がニーズも把握できると思いますので、分ける方向で検討します。</p>
福田会長	<p>ありがとうございます。ほか、何かありますでしょうか。下田平委員、お願いします。</p>
下田平委員	<p>気軽に相談できる場所について、問 8-1 では「民生委員・児童委員、主任児童委員」と、主任児童委員を入れていただいているので、できれば問 36-1 と問 36-2、問 37-2 についても追加をしてもらいたいと思います。</p>
東井子ども政策課長	<p>問 36-1、問 36-2 は府から示された項目になりますが、主任児童委員の文</p>

策課長	言は追加しても問題ないと思いますので追加します。また、問 37-2 は市の独自項目になりますので、ご意見を反映します。
福田会長	<p>それでは、次の案件に進みたいと思います。</p> <p>「会議案件（2）茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）に係る実施状況報告」につきまして、事務局から説明をお願いします。</p>
白波瀬こども政策課課長代理兼政策係長	<p>「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）実施状況報告書」は、令和2年3月に策定しました「茨木市次世代育成支援行動計画（第4期）」に位置付けました各事業・各取組につきまして、PDCA サイクルの手法にもとづき、令和4年度の実績を分析及び評価した結果をとりまとめたものになります。</p> <p>事前に郵送しております A4 縦、両面 2 色刷りの”記載見本”をご覧ください。</p> <p>この見本は、各取組の事業評価シートについて、記載内容等をまとめたものになります。見本の 1 ページをご覧ください。</p> <p>事業評価シートの上から、PDCA サイクルの流れにそって、計画【Plan】全体総括、実施事業、実施【Do】、分析・評価【Check】、改善【Action】となっています。</p> <p>計画【Plan】では、実施事業の担当課や事業名、茨木市総合計画の取組番号、事業内容、計画内容、どのライフステージに該当するかを記載しています。</p> <p>実施【Do】では、設定した活動指標の令和4年度実績、計画策定時点の令和6年度目標と、現在の令和6年度目標、できたこと・できなかったこと、を記載しています。なお、第4期計画は令和2年度～令和6年度の5年間になりますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の実績として、活動指標に令和元年度実績を追加しています。</p> <p>分析・評価【Check】では、事業を実施した結果の評価を「A・B・C・D・ー」の5段階で評価し、その理由や根拠、課題を記載しています。</p> <p>改善【Action】では、評価と課題をふまえ、目標達成に向けて、何をどう取り組むのかを記載しています。</p> <p>今回は、会議時間の短縮を図りつつ、質疑応答の時間を確保するため、事前に資料を送付し、ご一読いただいておりますので、各事業ごとの個別の説明は省かせていただきます。</p> <p>以上です。</p>
福田会長	<p>実施状況報告（案）について、妊娠・出産期 3 ページから 13 ページにつきまして、ご意見・ご質問がございましたらお受けしたいと思います。</p> <p>（質問者なし）</p> <p>それでは、私の方から 1 つ、4 ページの両親教室（パパ&amp;ママクラス）の、実施【Do】の活動指標②は、「講師人数」となっていますが、「受講者人数」だと思いますので修正をお願いします。</p>
村上子育て支援課長	「受講者人数」に修正します。
福田会長	茨木市の出生数はどのくらいですか。



村上子育て支援課長	年間、2,200～2,300人程度です。
福田会長	受講者数が減っているのは、コロナ禍などで1回の受講者数を制限するなどをしたからですか。
村上子育て支援課長	コロナ禍により、オンラインでの実施等を行っていました。
福田会長	<p>コロナウイルスが5類になったとはいえ、令和元年度ベースには程遠いように思います。幼児教室の必要性や重要度は今後も高まっていくと思います。コロナ禍もあって数字の部分でみていくのは難しいと思いますが、引き続きお願いできればと思います。</p> <p>次に小・中学校期の53ページから83ページにつきまして、ご意見・ご質問がございましたらお受けしたいと思います。</p>
三角副会長	まず、次世代育成支援行動計画というのは、茨木市のこども達全体の行動計画という理解であっていますか。
東井こども政策課長	そうです。
三角副会長	そうすると、計画に掲載されるのは公立保育所のことだけではないと思うのですが、私立保育園のことが全く書かれていないような気がします。どこまで調査を実施しているのでしょうか。例えば、22ページの食育活動する実施園の箇所数が20ということはありません。市内の全ての保育所・園は44園あって、そのうち半分以下の園しか実施していないということはありません。公立保育所だけの評価となっているのではないかと思います。どうでしょうか。
中路保育幼稚園総務課長	22ページの数値は公立保育所のみの実施数となっています。私立保育園のことは載っていませんが、食育について力を入れて取り組んでいただいていることは承知しております。ただ、第4期計画においては公立保育所のみの数値となっており、現計画がこれで進んでいますので今から変えることができません。このような評価としています。次の第5期計画では盛り込む形に変更したいと思います。
福田会長	貴重なご指摘だと思います。現計画の対象が公立保育園のみとなっていたものの、本来は市のすべてのこどもを対象としたプランになりますので、公立・私立に関わらず掲載すべきだと思います。
三角副会長	26ページ、「認定こども園の普及」とありますが、なぜ認定こども園にさせるべきなのか、なぜ普及が必要なのか教えてください。また、28ページの「保育提供体制の充実」をみても、待機児童数が0人となっているのに、新設していこうとしているのもどうしてなのでしょう。
中路保育幼稚園総務課長	保育所であると、就労要件がなくなってしまうと退所しないといけない。国においても、その点を踏まえて幼稚園部分をつくることで、退園しなくても通えるというメリットを踏まえて、普及としています。ただ、ご指摘の通り、確かにそういう狙いや趣旨の内容を挙げていませんので、分かりにくい部分はあ

	<p>ると思います。現行計画の内容になりますので、今からどこまで変更できるのかは分かりませんが、検討します。</p>
福田会長	<p>事業内容のところに、可能であればもう少し丁寧な記述をお願いできればと思います。もう1点、28ページについてはどうですか。</p>
中路保育幼稚園総務課長	<p>評価Aとしていたのは、令和4年の実績からA評価としているものです。今後も保育ニーズやこどもの増減を踏まえて、次期計画において新設するか否か、これまでの計画も踏まえて検討していきたいと思います。</p>
福田会長	<p>ありがとうございました。ほか、何かありますでしょうか。福井委員、お願いします。</p>
福井委員	<p>28ページの待機児童数について、待機児童室にいるこどもが含まれていないように思います。自分のこどもは待機児童室を利用しているのに、待機児童ゼロとなっていることには違和感があります。</p>
福田会長	<p>その点について、事務局いかがでしょうか。</p>
中路保育幼稚園総務課長	<p>待機児童数につきましては、国の定義に基づいた待機児童数の計算方法で算出していますので、その計算式によると0人となります。</p>
福田会長	<p>国の計算方法から言えば0人という理屈は分かりますが、見た目が0人となっているだけで、実際には待機児童室の利用者がいるという状況になっている。待機児童室に積極的に預けたい保護者はいないと思いますので、可能であれば、今後の改善のアクションとして、待機児童数が0人になれば良いということだけではなくて、その0人の質を問うような内容を追記すると、保護者も次に期待をできるという希望が持てると思います。</p>
村上子育て支援課長	<p>待機児童室は国の定義上では待機に含まれていないですが、そこを利用されている方が認可園に入れていない方ということは認識しています。保育園によっては現状でも定員以上の人数の対応してもらっているところもあります。本来の姿に戻るよう、量より質の方に展開していくように考えていきます。</p>
深見委員	<p>毎年4月に保育所に入れたい保護者が続出しています。ある保護者の方からは、希望する保育所を21か所記入して、その21か所目に入れたという話も聞きました。遠いところまで送迎をするのかと聞いたところ、引っ越すことも考えて書いたということでした。この状況は保護者を追い詰めていると思います。比較的、北の方は密になっていないので、市全体の平均は国の計算式では茨木市は待機児童数が0人になるという話を聞いていますが、人口密度や子育て世代の多い地域では全然入れていない状況です。そのあたりを理解して、希望した保育所に入れるようにしてもらいたいと思います。今も、必死で保育見学をしている保護者の方もいます。社会情勢をみると、どこも人手不足と聞きます。職場が人手不足で、3月までこどもをみようと思っていたのに、仕事復帰するために一生懸命預け先を探しているというような、苦しい状況にいる人もいます。イベントに参加いただいている方の中でも、社会復帰しないといけないことで、子育てのしんどさだけでなく、心のしんどさを抱えている保護者の方も多いです。子育て中のお母さんを、少しでも環境の良い中で生活できるように考えてもらいたいと思います。</p>

福田会長	待機児童ゼロの部分に関連した意見をいただきました。数値上は0人となっていますが、その数字の持つ意味をかみしめて取り組んでもらいたいと思います。
中路保育幼稚園総務課長	保留児童いわゆる隠れ待機児童がいるのは事実として認識しています。今後を見据えて、こどもは減少傾向にありますが、保育ニーズの高まりなどもありますので、今後どうなるのか考えていく必要があると思っています。また一方で、人手不足は保育士も例外ではないです。保育士の確保も課題となっていますので、保育士確保も引き続き支援しながら、課題の検討をしていきたいと思っています。
三角副会長	深見委員の意見については、自分の園でも毎月問い合わせがあります。一方で、事務局からもあったように、人材不足の波は保育業界にもあり、定員を埋められていない園もあります。保育士不足で、こどもを預かりたい気持ちはあり、隠れ待機児童もたくさんいるので、定員オーバーをしても受け入れたい気持ちはあるのですが、いかんせん人材がないのが現状です。こども何人に対して保育士を何人配置する必要があるという最低基準があるので、それも守らないといけない状況があり、保育所も苦慮しています。その点をご理解をいただきたいと思います。
福田会長	<p>生みたくても生めない人もおり、生んだ後の預ける先が無い人もいる、安心してこどもを生める環境ではない状況だと思います。一方で、施設では保育士が不足しており、各種手当を付けるなどで取り合いとなっている状況もあります。来年からすぐに解決するような問題ではないですが、委員の皆さんも事務局も含め、保護者の方がこどもの預け先に困らないように、安心して子育てができるような茨木市を、次の計画では目指していければと思います。</p> <p>会議終了時刻が迫っておりますので、本日の案件は以上とし、小中学校期からは次回の会議の案件とさせていただきます。それでは、今後のこども育成支援会議の日程について、事務局から説明をお願いします。</p>
白波瀬こども政策課課長代理兼政策係長	<p>今後のこども育成支援会議は、11月と、年度末2月～3月頃に予定しております。次回は11月15日（水）午後6時30分から、開催を予定しております。</p> <p>次回の会議案件につきましては、本日ご審議いただきました「次世代育成支援行動計画(第4期)実施状況報告書」の続きを予定しております。以上です。</p>
福田会長	これをもちまして、令和5年度第2回こども育成支援会議は終了とさせていただきます。長時間にわたりご協力をいただき、ありがとうございました。